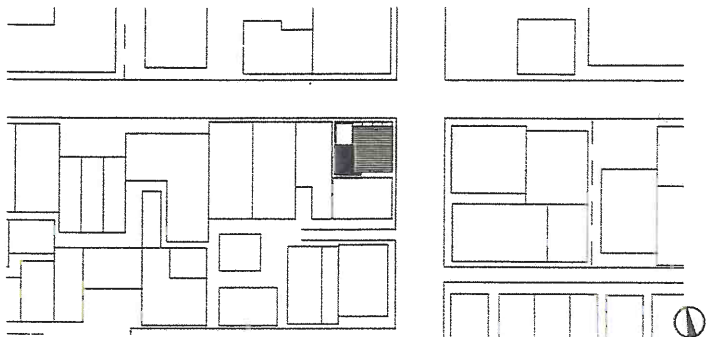


北側ファサード 玄関はスギ格子の引き戸によって開閉する

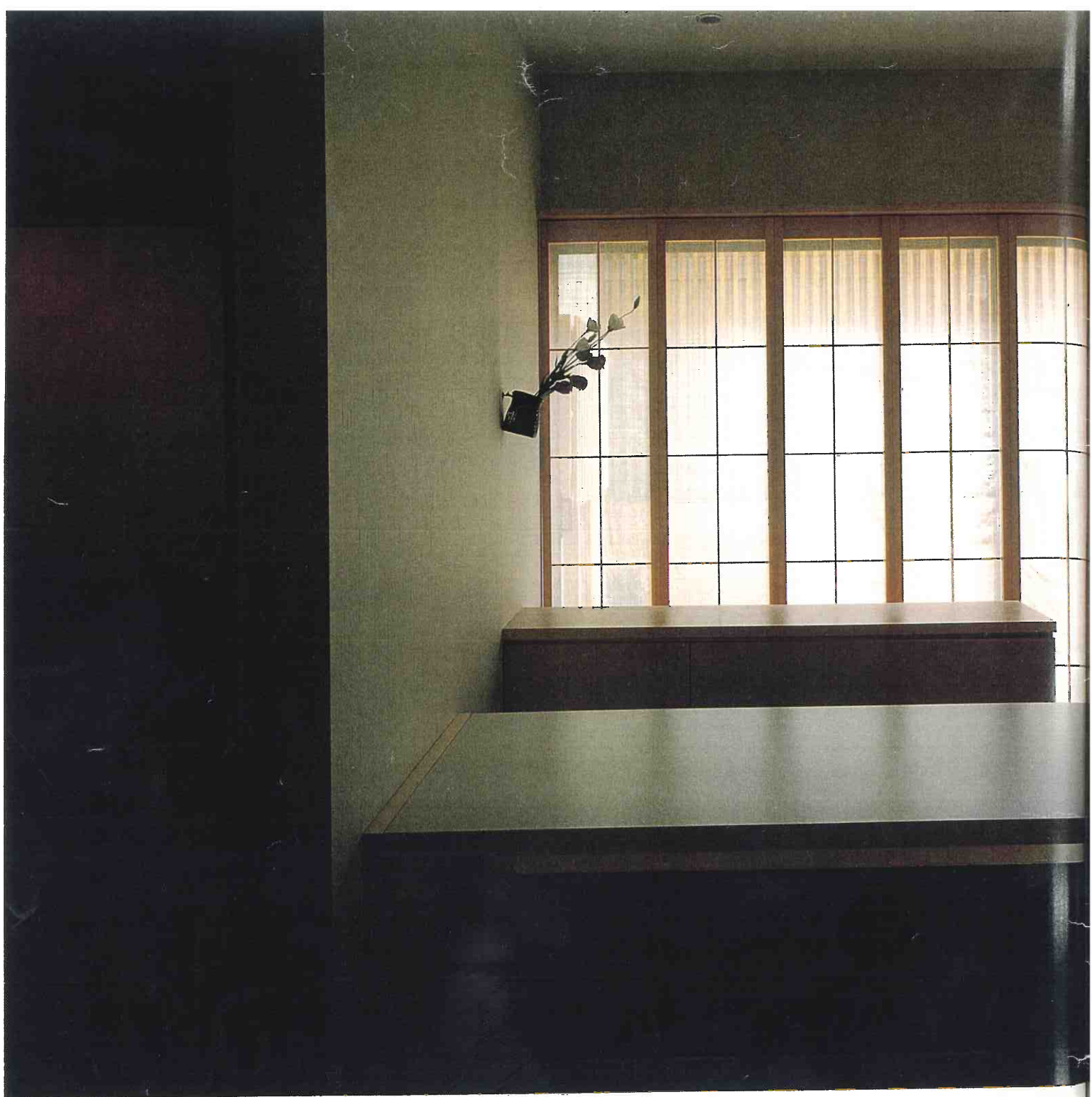


配置 縮尺1/1,000

清水庵

東京都葛飾区

設計 小川広次建築設計事務所+元良信彦/モトラデザインスタジオ
 施工 佐藤勇工務店



茶室見返し 茶会の際にはテーブルを折り畳んで床下に収納することで待合の間となる 左手には水屋が続く

矢や草を加工する町工場や、菓子、茶、自転車等の小売店が密集して建ち並ぶ。いずれも工場と住まいは一緒にある。人びとが頻りに行き交い、車が騒々しく走り去る。そんな準工業地域の一角にこの住宅は建っている。手えられたプログラムは、生活の一部として活用可能な茶室があり、茶会ができる住まいであることと、主人専用の書斎があり豊富な収納と明るく風通しのよいことであった。茶会を行うためには躰口のある茶室、蹲踞のある茶庭、待合、水屋、そして懐石料理を調理するための厨房が最低限必要となる。また主宅であるため当然ながらこれに加えて玄関

と階段が必要であり、これらすべてを7m×8mの限られた敷地の1階部分だけに配置するのは至難の技であった。

苦慮した末玄関をなくした。というよりは玄関扉と待合を1枚の壁だけで遮り、視線の向きを制御することで玄関とした。その結果扉を開くと茶庭が目飛び込んでくるという玄関ができ上がった。待合には掘ゴタツ式のテーブルが置かれ、ふだんは食事室として使われる。このテーブルは簡単に3つの部品に分解でき、天板(部品のひとつ)をひっくり返して床に蓋をすると広間となる。また、手織の布が貼られた折戸式の障子を開閉することに

より、茶会の進行状況に合わせて待合から茶庭への視線を制御することができる。これは日常的には外部からの視線を遮ると共に、夏場には網戸としても機能する。

茶室は四畳半本勝手、これは当然ながら京間である。ここはこれといって特別なことはしていない。しいていえばこの茶室が通常の住宅の建設単価でできているということである。手に入り得る材料とそれを選ぶ目、これを扱う職人の腕。それが小規模ながらも職人気質をもった工務店の力により結実したというべきであろう。

天井が低く抑えられた茶室の闇、吹き抜けた



2階の寝室、またこれに面した書斎のトップライトからの光。動線と共に変化する光とヴォリューム、これに並置された外部の茶庭とテラスと格子。これらの要素の変化に富んだ相関関係が小さな建築でありながら、奥行と広がりのある空間を生み出した。

竣工後、お席開きに一服のお茶をいただいた。焼けた炭においと湯の煙が茶室を満たしたとき、建築は亭主をもってはじめて命を吹き込まれるのだと、あらためて実感した瞬間であった。

(小川広次)



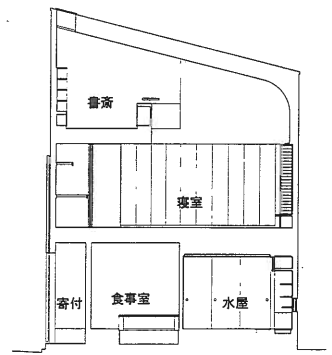
玄関より折戸越しに茶庭を見る 網戸にもなる折戸は、タイ製の布地が張られている



食事室より2階へ続く階段を見る



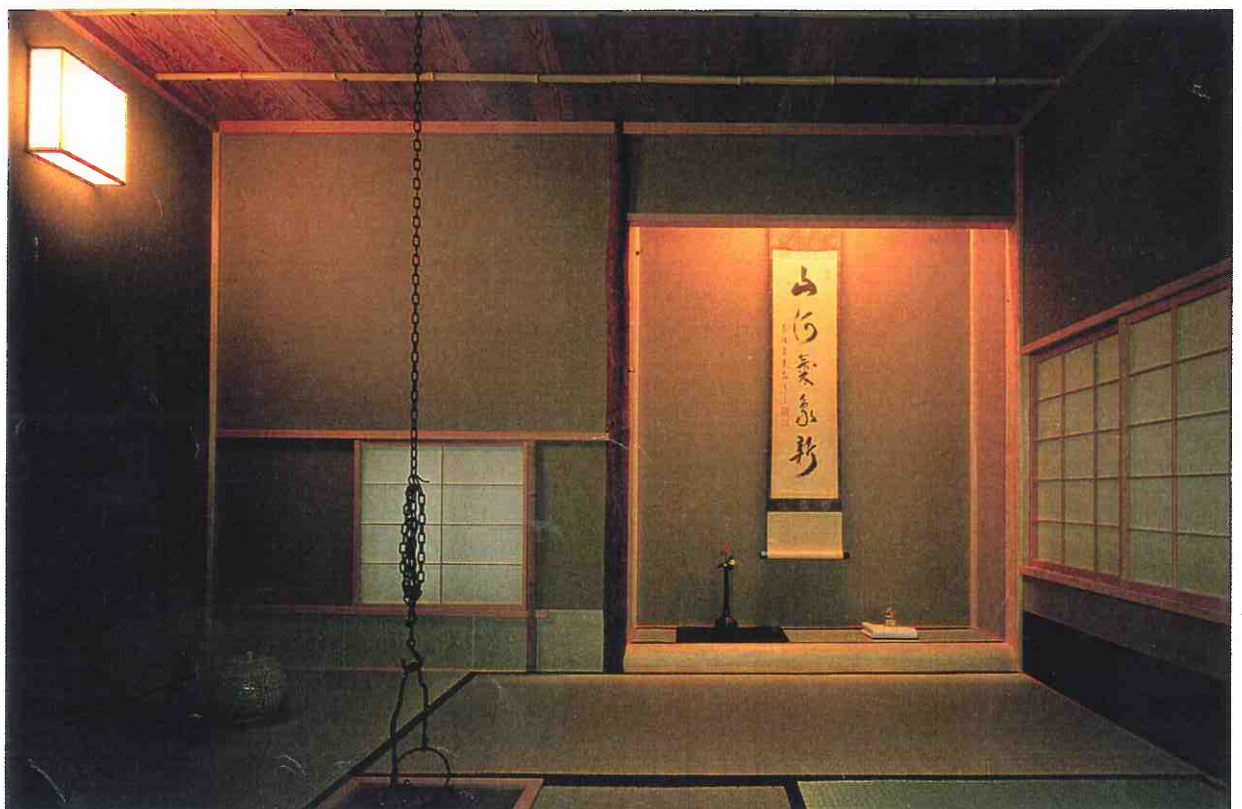
3階書斎



断面 縮尺1/200

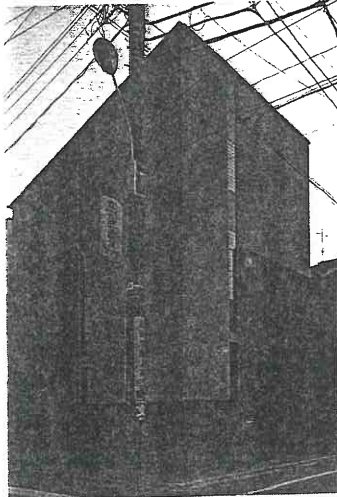


2階寝室より吹抜け上部の3階書斎を見る 正面左は仏壇
右頁 2階寝室 右手に砂利が敷き詰められたテラスが見える

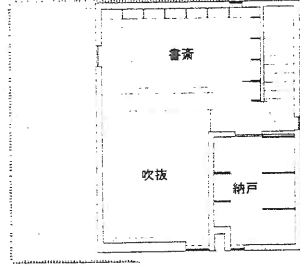


1階茶室では宗徧流の茶会が開かれる 平天井はスギ野地板重ね張り、棹縁はφ18mm竹、床柱はアカマツ皮付丸太φ90mm

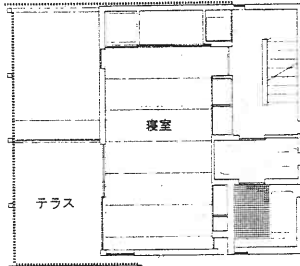




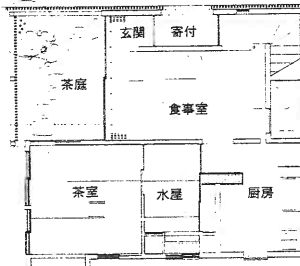
北東側全景



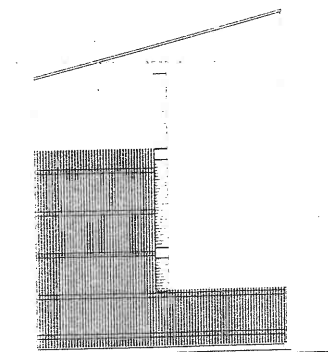
3階平面



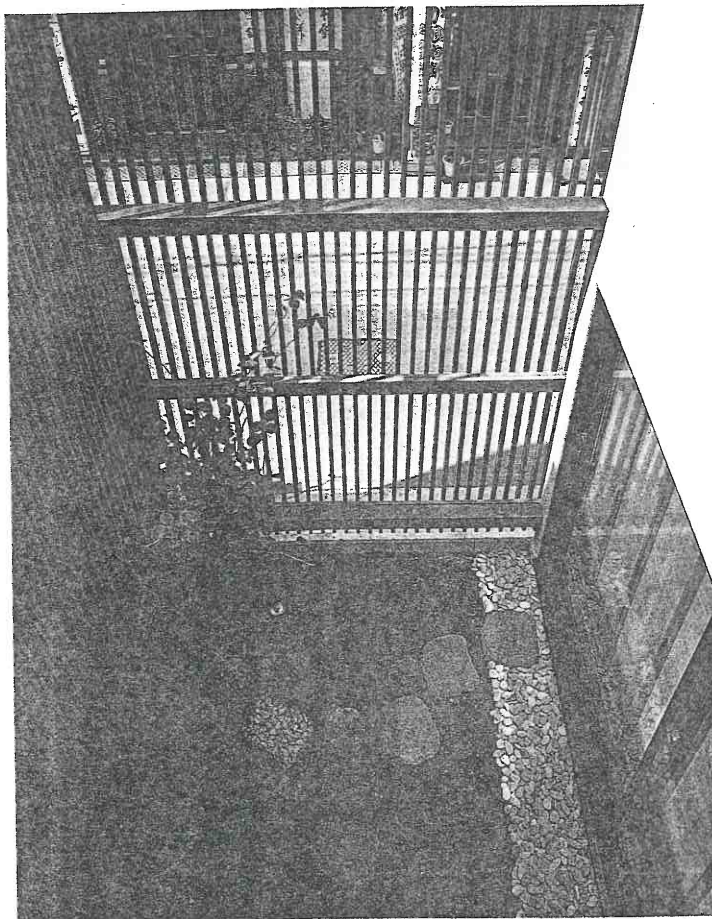
2階平面



1階平面 縮尺1/200



東立面 縮尺1/200



2階テラスよりスギ格子で囲われた茶庭を見下ろす

■清水庵 (せいすいあん)

所在地/東京都葛飾区

主要用途/専用住宅

家族構成/夫婦

設計

小川広次建築設計事務所+元良信彦/モトラデザインスタジオ

担当 小川広次 元良信彦

構造 井上建築構造設計室 担当 井上元治

施工

佐藤勇工務店 担当 佐藤勇

設備 三陽工業 担当 真保三夫

電気 志賀電設 担当 志賀良夫

外構・造園 植藤 担当 加藤明雄

大工 片桐工務店 片桐恒雄

左官 山田左官 担当 山田悠之

塗装 丹波塗装 担当 丹波文夫

建具 関本建築 担当 関本進

経師 香澤経師店 担当 香澤三朝男

家具 海老原木工 担当 佐藤賢祐

構造・構法

主体構造・構法 木造

基礎 布基礎

規模

地上2階+屋根裏 軒高8,785mm 最高の高さ 8,940mm

敷地面積 56.18㎡

建築面積 39.31㎡ (建築率 70% 許容 70%)

延床面積 92.12㎡ (容積率164% 許容200%)

1階 38.09㎡

2階 32.77㎡

屋根裏階 21.26㎡

工程

設計期間 1994年10月~1995年6月

工事期間 1995年9月~1996年3月

敷地条件

準工業地域 準防火地域 第2種高度地区

道路幅員 東7.2m 北5.4m

外部仕上げ

屋根/長尺カラー鉄板横一文字葺き

外壁/モルタル下地ジョリパット吹付け (アイカ工業) 一部ジョリパット金ゴテ押え (アイカ工業) スギ格子25mm×25mm@75mm ガードラック塗装 (和信化学工業)

開口部/アルミサッシュ (トステム 明治アルミ工業)

外構/植栽: オオスギゴケ トサミズキ 飛石・踏踏・菅脱石: 新穀馬 砂利: 緑花石

基礎立上り/大谷石φ30mm アクアシル塗装

内部仕上げ

玄関

床/大谷石φ50mm アクアシル

巾木/ベイマツφ9mm CL

壁/PBφ12.5mm クロス (サンゲツ)

天井/PBφ12.5mmビニールクロス (サンゲツ)

食事室

床/ベイマツ縁甲板φ15mm (大建工業)

巾木/ベイマツφ9mm CL

壁/PBφ12.5mmクロス (サンゲツ)

天井/PBφ12.5mmビニールクロス (サンゲツ)

厨房

床/ベイマツ縁甲板φ15mm (大建工業)

巾木/ベイマツφ9mm CL

壁/PBφ12.5mmクロス (サンゲツ)

天井/PBφ12.5mmビニールクロス (サンゲツ)

寝室

床/畳敷きφ23mm

畳寄せ ベイマツ

壁/PBφ12.5mmクロス (サンゲツ)

天井/PBφ12.5mmビニールクロス (サンゲツ)

書斎

床/ベイマツ縁甲板φ15mm (大建工業)

巾木/ベイマツφ9mm CL

壁/PBφ12.5mmクロス (サンゲツ)

天井/PBφ12.5mmビニールクロス (サンゲツ)

浴室

床/磁器タイル

腰/FRP

壁/ベイマツφ12mm キシラデコール(武田薬品工業)

天井/ベイマツφ12mm キシラデコール(武田薬品工業)

茶室 (清水庵)

床/畳敷きφ55mm

畳寄せ/ベイマツ

壁/PBφ12.5mm 京聚楽HR (フッコー)

腰/和紙貼り

天井/平天井: 野地板重ね張り(スギ) 裱縁: 竹φ18mm 掛込天井: 兼張り(ガマの葉糸通し)

垂木: 竹φ36mm 間垂木: 竹φ15mm 木小舞

柱: 竹φ9mm×2 床の間天井: スギ板張り 床

柱: アカマツ皮付丸太φ90mm 床框・付桁: スギ丸太 柱: ヒノキ 落掛・廻縁・造作: ベイマツ

水屋

床/畳敷きφ55mm

畳寄せ/ベイマツ

壁/PBφ12.5mm 京聚楽HR (フッコー)

腰/和紙貼り

天井/網代張り(スギ)

中柱/アカマツ皮付丸太φ80mm

設備システム

空調 暖房方式/ガス温水暖房+ガス温水床暖房

冷房方式/空冷ヒートポンプエアコン

給湯 給湯方式/ガス給湯器

給排水 給水方式/上水道直結給水

排水方式/公共下水道

主な使用機器

衛生機器/東陶機器 INAX

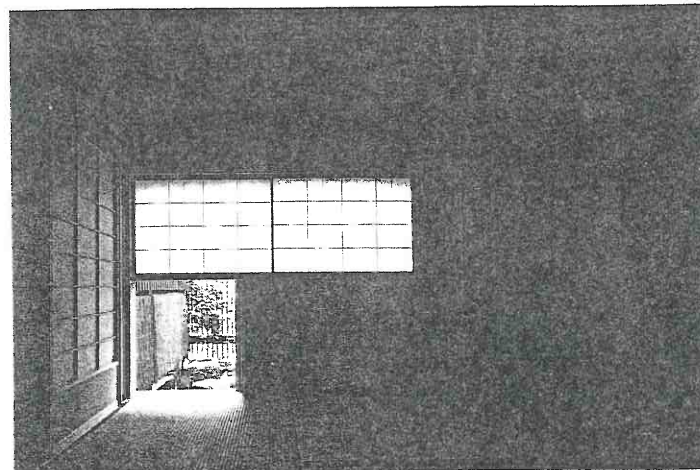
厨房機器/ハーマン エクスプレスジャパン

照明/小泉産業 遠藤照明 ヤマギワ 松下電工

建築金物/美和 清水商店 タキケン製造 高村金物

金物 スガツネ工業

撮影/本誌写真誌



茶庭に面した開口を見返す 茶室は天窓からの採光も可能